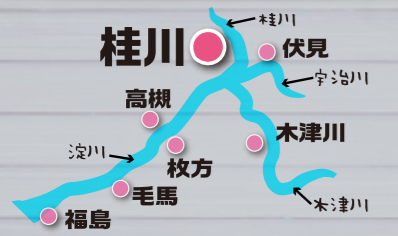


出張所の窓辺から

no.58



淀川管内に7つある、国土交通省淀川河川事務所の出張所から職員が管内のみどころを紹介します。今回の担当は桂川出張所です。

前回2022年春号(58号)にも記載していますが、嵐山地区の左岸溢水対策ですが、令和4年3月に完成し、同年12月17日に嵐山地区において嵐山左岸溢水対策完成式を開催し、これまでに多大な御協力をいただいた地元関係者の方々約90名が完成を祝いました。

また、左岸溢水対策の「可動式止水壁」は、2023年度グッドデザイン賞を受賞し、2022年度の宇治川塔の島河川整備事業での受賞に続き2年連続で淀川河川事務所の治水事業が受賞しました。この可動式止水壁については、淀川河川事務所から京都市へ業務委託を行っており、可動式止水壁の操作は京都市が行っています。

実際に令和5年度で3回、令和6年度で4回操作を行っており、嵐山地区の大雨による洪水対策に寄与しています。地元の方からも、止水壁があるだけで安心感がすごくあるとの声をいただいています。そのため嵐山地区においては各方面からの現場視察を多数うけており、昨年1年間で10回以上の現地視察が行われました。

日本で唯一の「可動式止水壁」、四季折々の風景の嵐山・渡月橋とともに、皆さんも是非一度ご見学下さい。



嵐山左岸溢水対策完成



2023グッドデザイン賞受賞



京都市による可動式止水壁の点検

川と人、人と人をつなぐ

河川レンジャー

淀川管内 RIVER RANGER

NEWS

no. 70
令和7年3月発行
2025 春号

川は学びに満ちている。

【川の総合学習】

撮影地:枚方市
学校近くの天野川、藤田川の合流地点で生き物調査や川ゴミ拾い。川での体験が子どもたちの学びを深めます。



オナモミ

みなさんは「ひっつき虫」を知っていますか?昆虫ではなく、衣服などに張り付く植物の種子や果実のことを言います。今回はその「ひっつき虫」の一つ、オナモミについて紹介します。

12月、小学校の「川の学習」で、子どもたちと一緒に淀川の三矢ワンドのオナモミを観察しました。「なぜひっつきのか?」みんなでルーペを使って観察すると、トゲの先端がカギ針状になっていて、その謎が解けました。

子孫繁栄のため、動物や人の衣服について新たな大地へ運んでもらう植物の種子散布の戦略を伝えました。

次に、生物多様性センターが発表している「ひっつき虫図鑑」を参考にして、みんなで

同定(種の識別)を行いました。現在、日本には在来種の「オナモミ」外来種の「オオオナモミ」「イガオナモミ」「トゲオナモミ」の4種があるそうで、先端のツノの形状、トゲのはえ方や数、実のふくらみ方などで種を識別することができます。

ルーペを使い、よく観察してもらったところ、結果は「オオオナモミ」とわかりました。どのような生き物でもよく見るとさまざまなことがわかってきます。川を通じて新たな知識をふやしてもらえればうれしいです。

枚方出張所管内河川レンジャー 岡村 雅広

国土交通省のサイト「川の防災情報」では、全国の河川の雨量・水位情報をチェックできます。川遊び中にお天気の変化が気になったときには、ぜひご活用ください。

<https://www.river.go.jp>

河川レンジャーは淀川流域を舞台に行政と流域住民をつなぐ橋渡し役を担っています。詳しくはホームページをご覧ください。

発行責任者: 淀川管内河川レンジャー事務局
〒573-0056 大阪府枚方市桜町3-32 TEL:072-861-6801(平日9時~17時)

淀川管内河川レンジャー <https://www.river-ranger.jp>

※本誌掲載記事、写真、イラストの無断転載を禁じます。

川を学ぶ、川で学ぶ。

学校からの依頼を受けて、川の総合学習の出前授業を行っています。授業のねらいに合わせてプログラムを作成し、子どもたちが川の探求課題を見つけるための情報提供や、川での生きものさがし、川ゴミ清掃などの体験活動を行っています。「川の生きものをもっと知りたかった」「またごみ拾いをしたい」、子どもたちの感想からは、「もっと～したい」があふれています。生きる力をのばす授業ができるよう、河川レンジャーも川に学び続けています。

- | | | |
|-------------------|---------------|-----------------|
| 01 河川レンジャー川と人をつなぐ | 02 よど川のいきもの | 03 よど川の水 |
| 04 よど川の環境維持川におくイズ | 05 よど川の利水川と生活 | 06 よど川の治水水害に備えて |



教室で…

- 桂川環境をよくするには(京都市)
 - 川の生きものを知ろう(寝屋川市)
 - 簡易検査キットで川の水質を調査(宇治市)
 - 川のいろいろなことを知ろう(枚方市)
- 干潟や地域の川で…
- 高校の科学部川の生物調査(木津川市)
 - 干潟を学ぼう(大阪市)
 - 災害碑から過去にあった災害を学ぼう(高槻市)
 - 地域を流れる川の生きものを調べよう(宇治市)



河川レンジャーは学校と連携し、川の学習を通じて子どもたちの学びを応援しています。



出前授業・出前講座の申し込みは、レンジャーホームページの「依頼したい」から →



淀川歴史まちあるきで訪れた災害碑・記念碑(その3)

造幣局の洪水標示石



レンジャー活動の「淀川歴史まちあるき」で訪れた独立行政法人造幣局(以下造幣局)にある「洪水標示石」の碑を紹介します。

大阪市北区、大川(旧淀川)の右岸沿い、桜宮橋から川崎橋の間に、造幣局の建屋群が見えます。造幣局では、硬貨の製造や勲章、オリンピックメダルなどの製作を行っています。

造幣局内の造幣博物館の近くに、「洪水標示石」と説明板が立っています。説明板には「洪水標示石は、明治18(1885)年の(淀川大洪水)の際に、造幣局構内をはじめ付近一帯に浸水した大水が、このラインまで達したという証を示したものです。これを機に洪水対策として明治40(1907)年に毛馬閘門、同43年に新淀川が完成しています。(略)」とあり、洪水標示石



洪水標示石



造幣局と大川

の上部には、浸水深さのライン(線)が刻まれています。

淀川河川事務所のホームページには、淀川大洪水について、次のように記載されています。「明治18(1885)年低気圧による淀川大洪水。枚方から下流の淀川南岸の堤防が次々に決壊し、府下の北・中河内郡、東成郡及び大阪市街の約1万5,270町歩(約1万5,100ha)が最大13.3尺(約4m)浸水、家屋流失1,631戸、同損壊1万5,491戸(淀川治水誌)の被害を出した」造幣局構内には、洪水標示石が、合計で4つあります。4月に開催される造幣局の桜の通り抜けの時には、このうちの2つ※の洪水標示石を見ることができます。

※2つのうち1つは、桜の通り抜けの開催期間中のみ一般公開しているエリアにあります。

福島出張所管内河川レンジャー 桑村和男



身近な川について学ぼう!(総合学習出前授業)



私が取り組んでいる活動は、小学校の総合学習です。4年では「身近な自然」がテーマで、先生方から出前授業の依頼が入ります。今回依頼があったのは、宇治市立御蔵山小学校で、山手の宅地開発により自然が少なく、近くを流れる堂ノ川が自然の代表です。4年生は1学期に堂ノ川の観察会をしていて、その際に出された子供達の疑問を手がかりに授業を組み立てました。多いのが、「川の中の黄色い汚れは何?」次いで「魚がないのはどうして?」という疑問でした。

実は堂ノ川の流域は砂防指定地で、堂ノ川の上流には治用水の調整池があり、黄色い汚れと思えたのは、流出した土砂です。この地域は、治水と砂防の

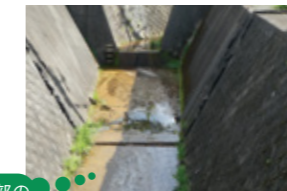


御蔵山小総合学習の様子

両対策が必要な地域で、人間の安全のために、川をコンクリート3面張りにしていて、魚や水鳥が息できない環境です。



堂ノ川最上流にある調整池と看板



める良い環境を作り出し、豊かな生態系が形成されています。授業では、生息の確認された魚や野鳥を多く紹介し、堂ノ川下流(木幡池を含む)には私たちが親しめる自然豊かな川が残されていることを伝え、これを守っていくため、川ゴミ問題も含め、私たちのできることは何かを考えるきっかけとなるよう講義をしています。ひいては、人間と自然の共生という重要な課題に気づいて欲しいと願っています。

堂ノ川上流部の黄色い汚れ?

[Column]

流域治水

グリーンインフラ × 河川レンジャー



淀川管内河川レンジャー アドバイザー 山田信人